

韓国における園芸の人的利用の現況

郭 炳華
高麗大学名誉教授

Human Issues of Horticulture in Korea Today

Kwack, Beyoung Hwa
Korea University, Professor Emeritus

皆さんこんにちは。まずは私を招き、このように講演する場をつくってくださった姫路工業大学の皆さんに感謝します。

さて、韓国における園芸療法のお話をします。1984年に韓国園芸学会大会のプレナリーレクチャー（1時間の特別講義）で、私が園芸療法について講義したことが、韓国で園芸療法を初めて紹介したことになります。この紹介は、園芸学を研究している研究者や学生を相手にして、これからの時代には園芸の療法的な利用が必要になるだろうから、注目していく必要があるのではないかという内容の講義でした。しかし、紹介してから10年ぐらいたった研究家たちの反応がありませんでした。私の専門は園芸療法ではありませんでしたが、とてもその重要性を認識していました。そこで、1990年ごろ、韓国ソウルにある高麗大学の園芸学科で3単位の選択科目として、園芸療法のお話ができる時間を設けたのが、韓国で初めての園芸療法に関する講義になります。

韓国の園芸療法の現況についてこれから説明します。全体的なところからお話すると、今までの園芸は生産物を目的とする農業の一部でありました。園芸産物の生産はとても大事なことで、これからも続けていかなければなりません。野菜、果物などは、私達が収穫し、食べ物として必要なものであるからです。

だんだん人間の生活が便利になり、生活の水準が高くなり、また機械化が進み、人間が自然から離れて生活をするようになってきました。いままでの生産中心の園芸のかたわらに、これから考えていかなければならない重要なことは、今人間が自然から離れてきている問題に対し、園芸がどういう役割を果たしていくかということです。このような分野の研究が必ず必要であるということが、欧米の最近の認識です。生産物のための園芸以外に心身的に人が、自然から離れた状態を自然に近づけるこ

2004年2月3日受付。

本報は2003年9月26日兵庫県立姫路工業大学自然・環境科学研究所自然環境ゼミナール公開セミナーにおいて発表されたものである。

ともまた大切な園芸の役割だと思います。

しかし、このような園芸の二つ目の役割、すなわち、園芸の療法的な力について、まだ一般の人々にはほとんど認識されていないし、知られていません。

現在、韓国には60ヶ所の大学に園芸学科があります。そのうちの10ヶ所の大学で、園芸療法に関する授業を選択科目として、1週間に3時間の授業を半年間行っています。多くの大学では、園芸療法に関する授業を3年生が受けるようになっています。

病院の場合は、200ヶ所の大規模の病院を調べてみますと、そのうち10ヶ所の病院で園芸療法を行っていました。園芸療法を行っている病院にはリハビリテーションセンターがあり、そこで精神・身体障害者を対象に分析的というより自然発生的な園芸療法を行っています。

1. 園芸療法に関する社会的動き

私立の建国大学 (Konkuk University) を中心に1997年韓国園芸治療協会がつけられました。現在、約200名の会員が活動しています。この6ヶ月あと、1998年には私立の高麗大学 (Korea University) で園芸治療に関する研究を含める韓国植物・人間・環境学会がつけられました。現在、約200名が活動しています。会員の3分の2が大学院の学生であることが特徴です。そして、地方の大邱カトリック大学では韓国園芸治療研究クラブが設立されました。活動を始めて約1年経って、今では約100名の会員がいます。

2. 大学での園芸療法に関するプログラム

園芸療法に関するプログラムを設けている大学として、韓国園芸治療協会を設立した建国大学があります。建国大学に併設されている生涯学習のための生涯教育院では、一般市民を対象とした園芸療法コースがあります。このコースでは、園芸、精神医学、心理学、その他の必要な演習などを含める15科目および8回の演習を、1週間に6時間、16週間受けることができます。

高麗大学にも同じような社会教育院があり、そこで園芸療法を教えるコースを設けています。約3ヶ月間一般的な園芸、精神医学、リハビリテーション学、園芸療法プログラムなどを受講することができます。

檀国大学 (Dankook University) では、以上の大学とは違って、園芸療法学専攻の修士課程を設けています。現在までに10名ほど修了者が出ています。修士課程の学生には、看護師やボランティアとして病院などの施設で園芸作業を行った経験がある人が多いです。出身学部は園芸学関係、看護関係、医学関係など多様です。現在では、園芸学を専攻した学生が多いようです。園芸療法に関する単位を24単位とって、研究論文を書くことで修士が認められます。第1表に園芸療法に関する講義を取り入れている園芸学科がある五つの大学を示します。

Table 1. Depts. of Hort. offering 3-credit courses of HT as the major elective.

Shingu College
Seoul Women's University
Kyungsang National University
Wongwang University
Honam University

3. 韓国の園芸療法士の資格制度

建国大学を中心に、初めて韓国に園芸治療協会が創られたことは先ほどお話ししました。そこで園芸療法士という資格を授与する制度をつくりました。韓国の園芸療法士には、「園芸治療士2級」、「園芸治療士1級」、「高等園芸治療士」と三つの段階があります。「園芸治療士2級」を申請する資格としては、園芸、医学、心理学など園芸療法に関する単位が70単位以上必要となります。この70単位は大学学部の授業、生涯教育院などで受講したものに認められます。園芸療法を専攻している修士課程の学生の場合は、大学院の授業の15単位以上受講したことで資格を申請することができます。また、単位をとったあと、有給・無給の園芸療法の臨床的な経験が1,000時間以上必要となります。これにあわせて、20時間以上のセミナーおよびワークショップの出席、園芸療法プログラムのレポートなどを備えて申請すると、協会の資格認定機関で審査し、資格を与えることとなります。

「園芸治療士1級」は、園芸療法学専攻の学部の大学卒業者、園芸療法学専攻の修士課程を修了者、大学院の園芸学を専攻した者で医学分野の授業を3科目以上受講し、園芸療法分野の修士論文を提出した者が対象となります。有給・無給の園芸療法の臨床的な経験3,000時間以上、40時間以上のセミナーおよびワークショップの出席、学会での発表1件以上、論文1件などを備えたうえで申請することができます。申請後、各分野の専門家10名で構成された審査会が開かれ、審査されます。審査を通ると、韓国園芸治療協会認定の園芸療法士資格が

発行されます。まだ、国での認定には及んでないのですが、将来の活発な活動のためには国で認定した資格が必要だと思えます。

そして、「高等園芸治療士」についてです。「高等園芸治療士」は「園芸治療士1級」をとってから5年以上経ってから申請ができます。8,000時間以上の臨床経験および100時間以上のセミナーおよびワークショップの出席、学会での発表5件以上、論文5件などを備えたうえで申請することができます。大学院の博士をもっている者程度のレベルになります。かなり厳しい審査を経て認定される資格です。まだ、「高等園芸治療士」の資格を有する者はいません。

園芸療法について関心があるのは、女性の方が多いです。日本では「園芸療法」といいますが、韓国では「園芸治療」といいます。「治療」というと、一般的に病気をもっている患者を治療するというような場面ですが、この「治療」という言葉をそのまま使っていますが、この「治療」という言葉をつかうことで、学生を含めた一般の人たちに、とてもアピールすることができます。例えば、「植物・人間・環境学会」というところではいったい何をするとところかと問われます。しかし、「園芸治療協会」といえば「園芸をつかって、人の悩みを治すような目的の集まりである」というような認識がすぐできます。

いままでの韓国における園芸療法は、治療プログラムをたてる最初の段階から取り組まれているわけではなく、園芸療法について研究したり、園芸療法士を目指したりしている人たちが病院やリハビリテーション施設に行き、研究・勉強のために医者、作業療法士、看護師、介護福祉士などのスタッフの協力を得たうえで行われています。このような活動がもとになり、病院などの施設のスタッフの園芸療法に対する認識が変化していると感じています。

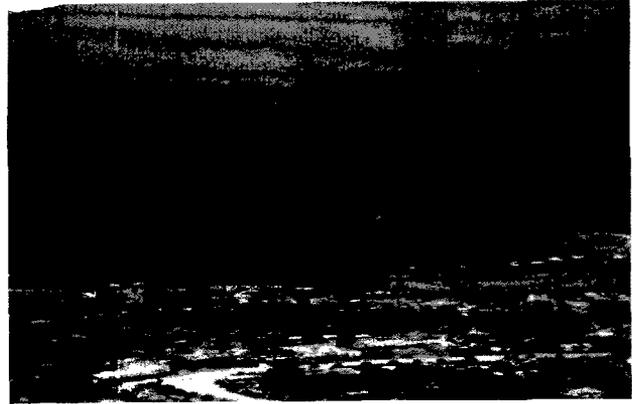
4. 植物園および公園の利用

第1図のMorning-calm Tourist Gardenはソウルから車で2時間くらいかかる場所にあり、韓国の伝統的な風景が再現されていることで有名です。ここに精神・身体障害者など園芸療法の対象者を連れてきて、利用することができます。この公園は、広くて景色がよく、空気も澄んでいるところです。常に利用することはできませんが、園芸療法として利用できる場所です。

第2図のBundang Civil Park, Han-river Civil Parkなども同じ目的で利用されている公園です。このような自然が豊富な公園を20～30分ほどかけてゆっくり散歩することが身体・精神障害の人たちにより刺激となり、効果があると思われます。園芸療法を行っている施設などで、対象者をつれてきて利用したりする市立の公園の例です。



Fig. 1. Morning-calm Tourist Garden.



Bundang Civil Park.



Han-river Civil Park.

Fig. 2. Bundang Civil Park & Han-river Civil Park.

5. 病院

リハビリテーションセンターがある病院で本格的に園芸療法を取り組んでいる病院はほとんどありません。園芸療法は、先ほどもお話したように、大学院の学生などが論文を書くために研究をかねて行っている場合が多いのです。現在、「園芸治療士2級」をもっている人が約150名、「園芸治療士1級」をとった人が約50名いますが、病院で園芸療法士として有給で働いている者はほとんどいません。ほとんどの人はボランティアとして園芸療法を実践している状態です。

このような状況下で、医者および作業療法士の協力

を得て、園芸療法を行っている病院を第2表に示しています。園芸療法は、だいたい1週間に1~2回、2時間程度行われています(第3図)。園芸療法を行ったあと、それに対する統計的評価をしなければ効果があったと認めてもらえません。そこで、Modified Barthel Index, Motor Free Visual Perception Test, Beck Depression Inventoryなどを指標として評価しています。

ほとんどの病院では、第2表に示しているように週1~2回、精神障害者を対象にして園芸療法を行っています。しかし、病院のほうから必要性を認識して、積極的に園芸療法を取り組んでいる状況ではなく、学生などが

Table 2. Horticultural therapy conducted at hospitals in Korea.

Where	Patients	Frequency
Psychiatry, Jungang Hospitals during the day time	MD ¹⁾	Once a week
Psychiatry, Samsung Hospital during the day time	MD	Once a week
Mental Health Center, Baekje Hospital	MD	Twice a week
Psychiatry, Soonchunhyang Hospital	MD	Once a week
Choonchun Psychiatry Hospital	MD	Once a week
Kangbuk Mental Health Center	MD	Twice a week
Dukangk Mental Health Center	MD	Twice a week
Rehabilitation Medicine Service	Brain damager	Twice a week
Rehabilitation Medicine Service, Yungdong Severance Hospital	Brain damager	Once a week
Handicapped Clinics, Korea Recreational Therapy Center	Developmental handicapped	Once a week

1) MD-medical diseases.

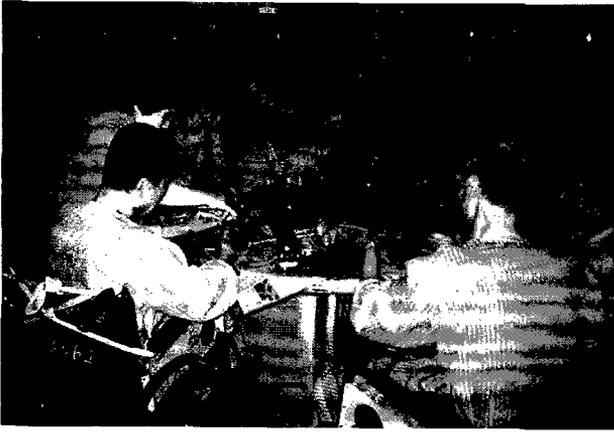


Fig. 3. Horticultural therapy program in Hyoja Hospital.

ボランティア活動として行っています (第3図)。このような状況を改善していくには、園芸療法の効果についてもっとデータをとり、研究をすすめることで、臨床的効果を調べていかなければいけません。

現在は、医者や看護師、介護福祉士などの資格をもって働いている人たちが、ついでに園芸療法の資格も取っておくような形で、園芸療法士という資格は考えられています。将来的には園芸療法士の資格だけで専門職になっていかなければならないと思っています。

6. リハビリテーションセンター

現在、韓国には109ヶ所のリハビリテーションセンターがあります (ここでのリハビリテーションセンターとは、痴呆、精神的発達遅滞などの精神的なリハビリテーションも含む施設です)。そのうち、園芸療法を行っている施設は数ヶ所にすぎません。園芸療法を行っている施設のなかでとくに、巨済島 (Geoje-do) という韓国の南にある島に、「愛光院 (Aekwangwon)」という韓国でもっとも大きいリハビリテーションセンターがあります。このセンターの利用者には精神障害をもっている人が多いです。ここでは、週に1回、園芸療法を行っています。野菜やハーブや花を作ったり、生け花をしたりするいろいろなプログラムがあります。

第3表に、韓国で園芸療法を行っているリハビリテーションセンターを示しています。「愛光院」以外の施設では、病院での場合と同じように、ボランティアに頼っ

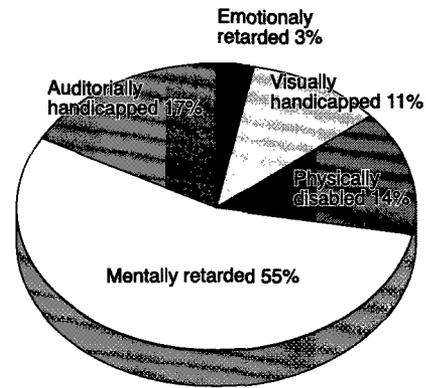


Fig. 4. Horticultural therapy programed patients by various disabilities.

て園芸療法を行っているところがほとんどです。

園芸療法の対象者を調べてみると、第4図に示しているように、知的障害者が55%でもっとも多く、つぎに聴覚、身体、視覚障害者の順でした。

7. 刑務所

韓国で、囚人のために園芸療法を行っているところはほとんどありません。40ヶ所の刑務所および5ヶ所の少年院で、園芸作業に取り組むことを試みているところです。刑務所などでの園芸療法はかなりその効果が期待できると思います。とくに、少年院での情緒的な安定に助けになると考えています。

8. 研究機関および学会

韓国園芸治療協会はソウルの建国大学 (Konkuk University) にあります。1997年から春と秋、2回シンポジウムが催されています。いままで6回のシンポジウムが開催されました。そして、2ヶ月に1回はニュースレターを出しています。

韓国植物・人間・環境学会はもともと高麗大学で創立されましたが、現在事務局は檀国大学 (Dankook University) にあります。1998年設立以降、年2回の研究発表大会が開かれています。研究雑誌 (Journal of Korean Society for Plants, People, and Environment) にはいままで約120の論文が発表されました。これまでよりもっと活発に園芸療法に関する研究についての論議がされ

Table 3. HT conducted at rehabilitation centers in Korea.

Where	Patients	Frequency
Shinmang-ae Rehabilitation Center	MR ¹⁾	Once a week
Dongbek-won	MR	Once a week
Aekwang-won	MR	Once a week
Songpa Dementia Protection Center	Dementia	Once a week
Chungsol School	MR	Once a week
Songpa Elderly Rehabilitation Center	Dementia	Once a week
Chungdam Rehabilitation Center	MR	Once a week
Poonup Social Welfare House	Dementia	Once a week

1) MR-mentally retarded.

るためには、この韓国植物・人間・環境学会という名前を、何を研究している学会であるかがよりわかりやすくするために、2004年に学会雑誌名の副題目に“人生、治療、健康および福祉”を加えました。

9. その他

現在まで発行された園芸療法という言葉がタイトルに含まれている韓国の書籍は、全部で6冊です。そのうち、1冊は1994年に出版されたグッロセ世津子さんの「園芸療法」を韓国語に翻訳した本です。

いままで発表された園芸療法に関する論文を基本的な内容のもの、臨床的な内容のもの、それから造園的内容のものに分類することができます。その割合を第5図に示しています。全体の半分以上を占めている基本的な内容のものとは、園芸療法の効果を実験的に調べたものです。

そして、今年2003年から国の園芸試験場で、園芸療法の研究プロジェクトがはじまりました。いままでの園芸試験場では生産を中心として研究をすすめてきましたが、園芸療法の効果に対する評価、園芸の経済的な価値などについても調べることになります。郡単位で農業技術センターというものがあり、50ヶ所のそのセンター

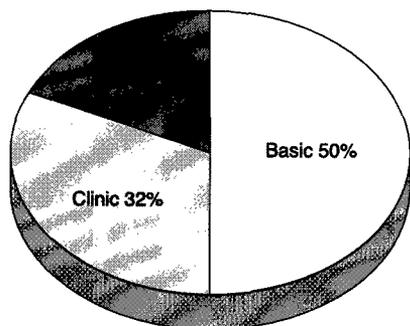


Fig. 5. Papers published on different clients subjected to study on horticultural therapy benefits (%).

で園芸療法の研究セッションをつくりました。生産のための農業だけではなく、園芸療法のような方面の研究もやって欲しいという願いが叶いまして、予算がつき、研究をすることができるようになりました。

園芸療法に関する論文は、先ほど話した雑誌だけではなく、韓国園芸学会誌それから韓国花卉研究学会誌というところにも、数は少ないですが、しばしば発表されています。

現在の韓国において最も重要なことは、大学などで園芸療法のプロプログラムを研究することで、学生達が病院やリハビリテーションセンターの人たちに園芸療法に関する情報を伝えることではないかと考えます。大きな都市では人口が増え、自然から離れて生きることが当たり前のようになっています。園芸療法の研究をしているものが病院などの施設に行き活動することにより、人間にはみどりが必要であり、自然が必要である、または人間性および人間の発達過程でみどりが精神的に重要な役割をしていることを人々に認識させることができると思います。

いままでのように、生産のための園芸も続けなければなりません。これからの21世紀には、園芸が人間をつくる時代であると思います。いま人間は自然を無視し、自然から離れて生活していますが、人間の遺伝子は自然を求めているわけです。その遺伝子の命令に逆らってきたことで、人間はガンや心臓病やら、精神的な疾患になったりしているといっても過言ではないと思います。私が若い頃には聞いたこともない病気がどんどんできていくことは、人間が自然を無視した結果ではないかというのが私の考えです。このような分野を私たちはこれから一生懸命研究していかなければならないものだと思います。

園芸療法における園芸活動は、自然を失った人間が、忘れてしまった自然を取り戻せるもっとも経済的かつ効果的なものだと思います。